

## 第4回 いま、教育が熱い！

皆さん、こんにちは！

現在ロンドン大学IOE (Institute of Education) で教育・国際開発修士課程 (MA in Education and International Development) に在籍しております登道孝浩と申します。

中国語を第2外国語として学び、言語教育に興味のあった学部時代、私は漠然と「途上国の教育」に関して将来的に勉強できれば良いなあと感じておりました。やはり大学院に行くのなら海外(将来的に国際機関で勤めたいという希望がありますので)、そして開発学の老舗であるイギリスで学びたいと言う気持ちが強く、IOEに願書を提出したところ、運良く受け入れられ、現在に至っております。

私の所属するコースでは1年間で「4科目 + 修士論文(20000語)」もしくは「5科目 + レポート(10000語)」をそれぞれ履修、執筆することが求められています。実際には10月からの秋学期に2科目、1月からの春学期に2科目、そしてイースター休み頃から修士論文を書き始める、というパターンを取られる方が多いようです。

秋学期にある「学習、教育と開発:理論と実際(Learning, Education and Development: Concepts and Issues)」という科目は必修となっており、フルタイムのすべての学生が受講します。10回のセミナーのうち、始めの4回は保健分野も含め、教育開発とは何かについて概観します。残りの6回で、教育開発分野における理論と実際について、経済・社会・文化・心理・政治・経営(統治)の観点からの分析を試みます。1回のセミナーは途中休憩をはさみ3時間で、各分野の講師によるリレーセミナーとなっております。

選択科目には、「万人のための教育(EFA)フレームワークにおける学習者、学習、そして教授(Learners, Learning and Teaching in the Context of Education for All)」、「教育計画、統治、そして管理(Planning, Governance and Administration)」、「国際開発のコンテキストにおける保健促進のための参加型計画と経営(Participatory Planning and Management for Health Promotion in the Context of International Development)」などがあります。他の学部から「ジェンダー、教育と開発」、「教育経済学」、「アジアの教育」などの科目を履修することもできます。

サセックス大学と同様、学生はアジア、アフリカ、北・中・南米、ヨーロッパと様々な文化圏からやってきており、日本人はその中で多数派です。私のコースは数ヶ月から数年の現地での経験を有することが入学条件となっており、ローカル/国際NGO、民間企業、国際機関での経験を積んでいる方が多く、専攻の性質上、教師としての長い現場経験をお持ちの方が多くおられるのも特徴です。私自身も英語の教員免許状を有しており、IOE入学前は教育NGO(人権教育系)のスタディーツアーでフィリピンに赴き、その後に中国・吉林省で小学校教育に関する調査をしました。

修了後の進路としては、UNICEFやUNESCO、または教育NGOでインターンをされる方が多く、開発コンサルタント会社に就職される方もいます。

私自身は現在教育経済学のペーパーを書いておりますが、修士論文は中国の教育開発に関することが執筆できれば、と思っております。修了後は中国やアジア方面での現地経験を積み博士課程に進学、学位を取得した後、国際機関に勤務できればと考えております。

(科目等の日本語訳は筆者による拙訳で、大学の公式なものではありません)

2004年1月13日

IOE 教育・国際開発修士課程 登道 孝浩



市民・学生の<憩いの広場>ラッセル・スクエア